

輸出事業計画（GFPグローバル産地計画）

申請者名：なめがたしおさい農業協同組合 品目：かんしょ

1. 輸出における現状と課題

【現状】

○なめがたしおさい農業協同組合は、これまで国内において手ごろな価格で身近に購入できる焼き芋の普及を行ってきた。中長期的な視点で見ると、国内市場は人口の縮小に伴う需要の縮小が見込まれることから、今後の成長が見込まれる海外市場を新たなターゲットとして、この「焼き芋戦略」を海外においても展開することとした。

○平成29年からカナダを中心として、かんしょの輸出に取組み始めた。今後は既存輸出国の輸出を拡大させるとともに、新規市場でのシェアを図る。

【課題】

○近年の国内外での需要増に対応した出荷量が確保できていない。

○各国の基準等に対応した生産体制を構築する必要がある。

○商談や海外での販売に際して、競争力を高めるためにHACCPやグローバルGAP等が必要となる。

○船便輸送に伴うロスの発生。

○輸出している各国では、海外産の安価なJapanese Sweet Potatoや、他県産のかんしょがすでに流通している。

2. 輸出事業計画の取組内容

計画策定

- GFPグローバル産地計画の策定
- 海外市場調査（既存輸出国、新規輸出国の消費動向及び消費者・バイヤーのニーズ調査）

生産・加工等の体制構築

【HACCP・グローバルGAP等】

○取得に向けた研修等の実施，施設改修に向けた調整等

【輸出に対応した生産体制の構築】

○残留農薬検査等による栽培体系の検討

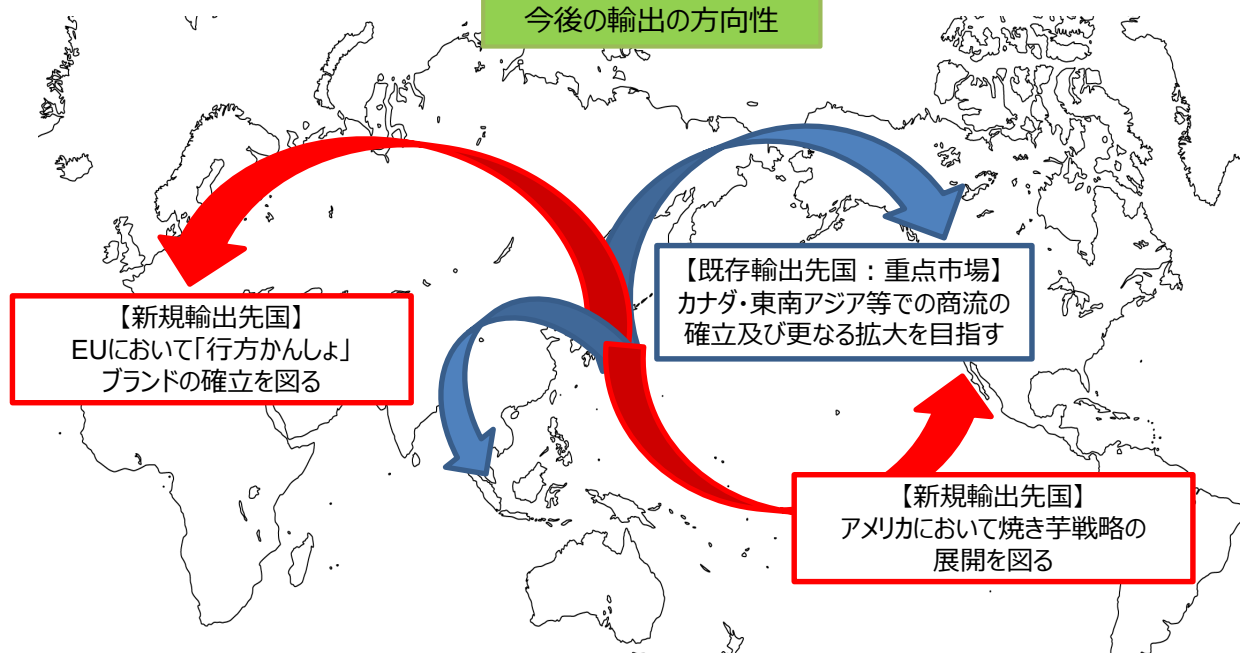
【需要に対応した生産量の確保】

- 収量向上のための資材効果の実証・普及
- 病害防除のための資材効果の実証・普及
- 圃場拡大の計画策定
- 収穫繁忙期の分業化の検討

産地計画の事業効果の検証・改善

- 関係者会議でのPDCAによる事業効果の検証・効率化
- 船便輸出のロス削減のための資材等の検討

今後の輸出の方向性

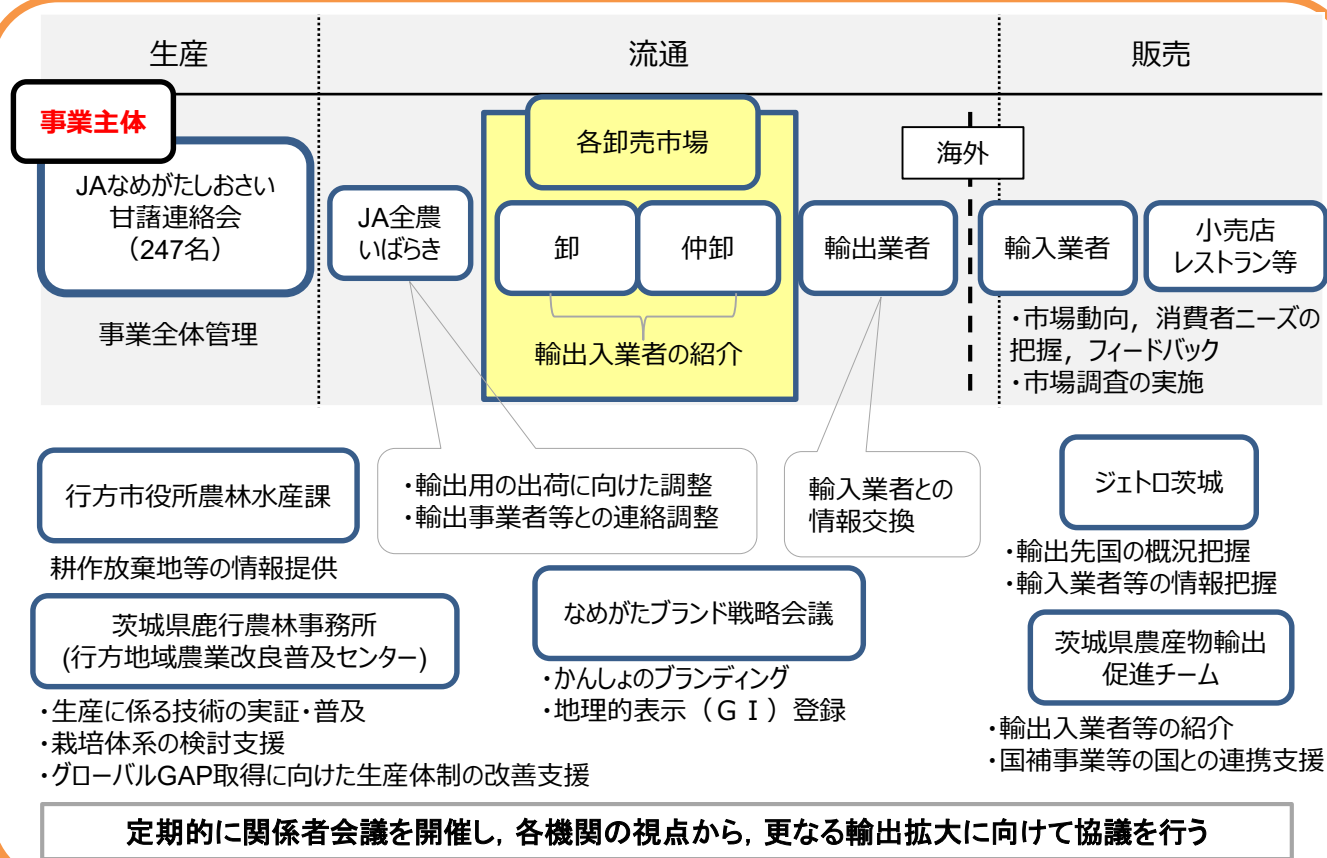


「焼き芋戦略」を展開の中心とし、各国の検疫条件や市場性を考慮しながら、加工品等も活用した安定的な輸出を行う。

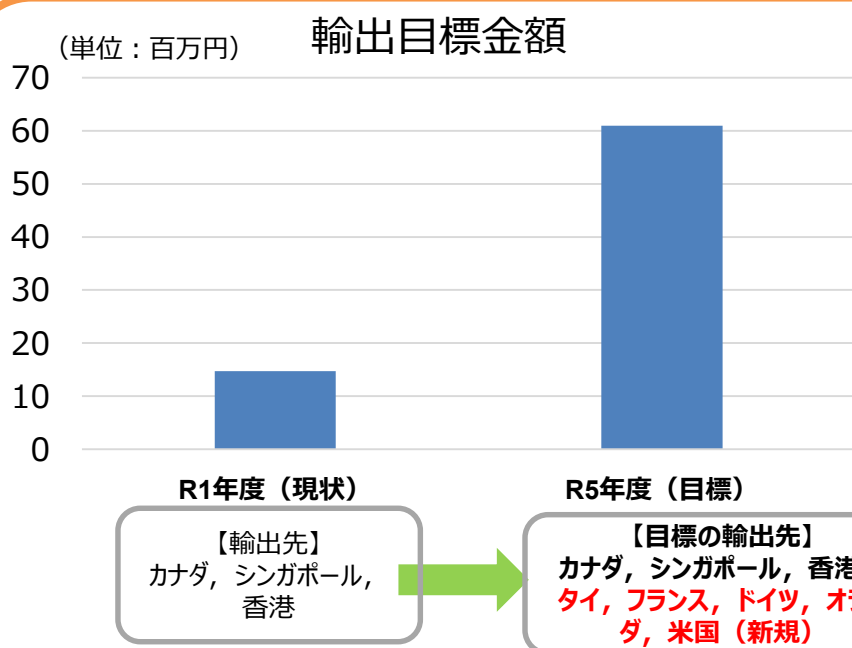
輸出事業計画（GFPグローバル産地計画）

申請者名：なめがたしおさい農業協同組合 品目：かんしょ

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額



既存輸出国は、販売地域の拡大や商品・品種の多様化を図り、更なる輸出拡大を目指す。新規輸出国は、市場調査を通じて現地のニーズを把握し、焼き芋戦略を中心とし、加工品も組み合わせ、ニーズに対応した輸出を図る。